

兵庫 県
保険医協会

西宮屋 支部ニュース

No. 335

2016・12・15

〒662-0832

発行 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内
連絡先 兵庫県保険医協会
電話〇七八(三九三)一八〇三

市民公開講演会「バイマールヤンジンさんが語る『私が見た日本、伝えたい』チベットのこと」

チベットと日本の架け橋 ヤンジンさん

西宮・芦屋支部は11月12日、西宮勤労会館大ホールで市民公開講演会「チベット人声楽家バイマールヤンジンさんが語る『私が見た日本、伝えたいチベットのこと』」を開催。チベット人声楽家でチベットにおける学校建設など社会活動にも積極的に取り組むバイマールヤンジン氏が講演し、市民など130人が参加した。開会の挨拶を大森公一先生(西宮市・大森内科医院)が、謝辞を法貴憲支部長(西宮市・法貴皮膚科)がそれぞれ述べた。参加した林田英隆先生(西宮市・林田クリニック)の感想文を紹介する。

目にも生まれませんでした。遊牧民で、教育水準が低い、敬語すらない、すべて平等、電灯も充分でない生活です。羊の新鮮な乳汁は収入源として販売し、自分たちはカビの生えた乳汁を食べていたそうです。後に日本に来てからこれがチーズだと知ったと話されました。また、以前は生ごみは羊が食べ、糞は燃料とし、その灰は野菜の肥料にするという具合で、ゴミは発生しなかったが、今はビニールなどのごみが問題となってきたこと、小さい時から甘いものは食わず、固い羊のジャークリーシかなかったためチベット人には虫歯がないことなど、まさに野生の中で育った色々なエピソードを紹介されました。

講師のバイマールヤンジン女史を支部講演会でお招きするのは2度目となります。彼女はチベットの大自然に育まれた力強くみずみずしい感性で、チベットの文化や習慣、日本とチベット文化の違い、家族の在り方などを各地で公演して、多くの人々に感動と共感を与えています。今回130人が参加しましたが、参加者の中には「おっかけ」の方も数人見かけました。平均年齢は70歳代で、若者の参加が少なく残念に思いました。

まず自己紹介からトークが始まります。彼女は成都からバスで2日もかかる4000メートルの山脈の5万人の町で、11人兄弟の9番目として生まれました。遊牧民で、教育水準が低い、敬語すらない、すべて平等、電灯も充分でない生活です。羊の新鮮な乳汁は収入源として販売し、自分たちはカビの生えた乳汁を食べていたそうです。後に日本に来てからこれがチーズだと知ったと話されました。また、以前は生ごみは羊が食べ、糞は燃料とし、その灰は野菜の肥料にするという具合で、ゴミは発生しなかったが、今はビニールなどのごみが問題となってきたこと、小さい時から甘いものは食わず、固い羊のジャークリーシかなかったためチベット人には虫歯がないことなど、まさに野生の中で育った色々なエピソードを紹介されました。

と話されました。チベットでは人工衛星が肉眼で見ることができません。満天の星空、青空、彼女は故郷を愛しています。彼女には現在中学1年生の息子がいますが、生後9か月から毎年この故郷に連れて行っています。5歳の時に故郷を見た息子は「上はきれいな、でも、下は汚い」と言ったそうです。また、チベットでは1年365日朝から晩までお経を耳にします。旦那さんの母が彼女をじゃじゃ馬と言うのですが、自分を理解してもらおうと故郷に連れて行くと、母はお経を聞いて1日中お葬式が行われていると思っただけと言われたそうです。

日本に来て、自分をここまで育ててくれた親、そして兄弟に感謝し、少しでも仕送りしようとしてアルバイト探しをするもことごとく断られたというお話もありました。日本語が片言ではどこも雇ってくれません。しかし、吹田のロッテリアが雇ってくれたことを感謝の言葉で語ります。日本に来て、日本の駅には塵ひとつないこと、また、新幹線はもちろん、吹田のバスも1分も遅れず運行する時間厳守にびっくりしたと話します。デパートの開店時間に行くと、従業員が1列で「いらっしゃいませ」と迎える、日本人の「おもてなし」に驚き、また、息子が病気をした時、いつでもすぐに医療を受けることができ、しかも医療費がタダ同然でびっくりしたとも話されました。チベットには小児科医、歯科医がない、レントゲンを撮れる診療所もない、必要であれば2日かけて成都まで行かなければなりません。途中のバスの中で命を落とす人もいと訴えられました。

チベット人には自殺者がいないとも話されました。毎年、3万人以上の自殺者を出すとレス社会の日本にあって、一体なぜと思いましたが、彼女が語るチベットの生活は貧しくても家族、動物そして地域の人々の和の中で生育していくためであるうと思えます。チベットの子どもたちに教育をと、仲間との学校建設推進協会の活動をはじめ、今では小学校10校と中学校1校が開校しているとのこと。

聴衆を引き込ませるトークでした。最後に披露された本職の歌は、力強い歌声とみずみずしい感性、大平原から聞こえてくるような歌声で参加者の心を揺さぶりました。懇親会にも参加していただき、彼女の人柄と心優しさ、そして謙虚さにただただ感激しました。

【西宮市・林田クリニック 林田英隆】



聴衆に語りかけるバイマールヤンジンさん(右)
謝辞を述べる法貴支部長(中央)と挨拶する大森先生(左)



市民ら130人が参加して講演に聴き入った

西宮・芦屋支部 近年開業医交流会・支部新年会
開業医が知っておきたいリスクマネジメント
 クレーム対応のポイント、個人情報保護や応召義務など

日時 1月21日(土) 15時～17時
 場所 西宮市民会館5階502会議室
 阪神西宮駅「市役所口」改札北へ徒歩1分
 講師 白水法律事務所 弁護士 鵜飼 万貴子 先生
 参加費 無料
終了後(17時半～) 支部新年会
 会場 青椒(ピーマン) *交流会会場近隣
 会費 5,000円 *当日徴収し領収書を発行します

新規開業の先生はもちろんベテラン・中堅の先生もふるってご参加ください!

西宮・芦屋支部では、新規に開業・継承されたと、ベテラン・中堅医師との交流の場として「近年開業医交流会」を開催いたします。
 今回は医療訴訟の分野で豊富な経験をもつ鵜飼万貴子弁護士を講師にお招きし、トラブルを防ぐためのクレーム対応などの日常の留意点や万が一の時の対応、個人情報の取り扱いの注意点などを話題提供いただき、交流していきます。終了後には支部新年会も予定し、日々の診療や医院経営に役立つ情報などざっくばらんに交流します。

お申し込み・お問い合わせはTEL: 078-393-1809 納富・山田・岡林まで

支部忘年会のご案内

日時 12月29日(木) 午後6時スタート
 場所 『木曾路』西宮店 0798-33-0050
 阪神西宮駅から北東へ徒歩5分、JR西宮駅から西へ徒歩10分
 会費 7,000円
 当日徴収し、領収書を発行します
 定員 30人 (先着順・事前申込制)



上田先生が訴訟の経緯と目的を説明した

上田先生は陳述の中で、当初、解体業者は建材の一部にアスベストがあるとして西宮市に申請していたが、業者が変わると「アスベストはない」とする書類に差し替えられそのまま解体されてしまった。しかし、残存する建物に対し、住民が独自に調査すると、空調のダクトパッキンからレベル2のアスベストが発見され、設計図書からもアスベストが大量に使用されていたことが明らかになったと問題点を指摘。また、西宮市は書類が差し替えられても十分な調査をせず黙認した上、住民がアスベストの存在を確認しても、「アスベストはない、改めて調査するつもりはない」という態度を変えないと批判した。その上で裁判を通じて真相究明を目指すとともに、飛散防止に向けた取り組みが進み、将来アスベストによる健康被害に苦しむ人を減らしたいと訴訟の目的を述べた。

口頭弁論後の記者会見で、中皮腫・じん肺・アスベストセンターの永倉冬史事務局長は、アスベスト含有建物の解体は規制がゆるく、業者はアスベスト除去費用を浮かせるため手抜き工事を行い、行政も見えて見ぬふりをしがちであるとし、今回の裁判は、ずさんな業者や行政の態度を問うものであると裁判の意義について説明した。

世話人会だより

西宮・芦屋支部は11月25日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。5人が参加した。

【報告】

- ① インスタントラーメン発明記念館見学 (11・3) 24人
- ② Medical English #48 (11・4) 9人
- ③ 保険請求事務講習会 (11・12) 50人
- ④ 秋の文化講演会 (11・12) 130人

【予定・企画】

- ① 支部忘年会 (12・29)
- ② 近年開業医交流会・新年会 (1・21)

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

真相究明とアスベスト健康被害拡大防止を
 「しき岩アスベスト裁判」始まる

協会と西宮・芦屋支部が支援する「西宮こしき岩アスベスト裁判」の第一回口頭弁論が10月25日、神戸地方裁判所で開かれ、原告団代表で医師の上田進久先生(支部世話人)が意見陳述した。

この訴訟は、西宮市にあった旧夙川学院短期大学で校舎の解体工事が行われた際、アスベストが飛散した可能性が高く、精神的苦痛を受けたとして、周辺住民38人が、開発業者や解体業者、監督責任がある西宮市を相手に、慰謝料として計190万円の損害賠償を求めているもの。